

おおがきししぜんちょうさ
大垣市自然調査

ガイドブック

すいいき い ものへん
～ 水域の生き物編 ～

おお がき し
大 垣 市

目次

はじめに	1	
ちょうさ 調査のための	じゅんび 準備	2
ちゅうい 注意すること	2	
ちょうさ 調査のやり方	かた	3	
ちょうさひょう 調査票	きにゅう への記入のしかた	5
ちょうさひょう 調査票	6	
ちょうさたいしょうしゅ 調査対象種	5 8 しゅるい 種類	9

□はじめに

私たちが住んでいる大垣市は、水の都と呼ばれており、河川や池などの水資源が豊かです。水の中にはいろいろな生き物が生息しており、水は生き物にとって大切なものです。

大垣市では、以前から小中学生を対象に、大垣市の環境を学ぶ機会として、いくつかの学校でカワゲラウォッチングを行ってきました。

カワゲラウォッチングは、川に棲む生き物を生物指標とし、調査で捕まえた生き物の数や種類から川の水質を判断する調査方法です。

川の中で楽しく生き物を捕まえながら、私たちが暮らす大垣市の環境を学んでみましょう。

□ 調査のための準備

❖ 服装： 帽子、長靴または濡れてもいい靴（かかとがある靴がよい。ビーチサンダルなどはだめ。）

❖ 持って行くもの： タオル、筆記用具（鉛筆と消しゴム程度でよい）、水筒（のどが乾いたときの水分補給用）、タモ（生き物をとる網）、バット（捕まえた生き物を分けたり、観察したりする時に使用）、バケツ（生き物を入れる容器）、ピンセット（捕まえた生き物を分ける時に使用）

□ 注意すること

1. 暑さ対策をしっかりと行う。

➢ 調査は外で行います。日射病にならないように、帽子をかぶりましょう。

➢ こまめに水分補給をしましょう。

➢ 疲れたら、休憩しましょう。

➢ 体調が悪く感じたら、すぐに調査を中止しましょう。

2. 危険な場所には行かない。

➢ 川には、流れが速いところ、深いところといった危険な場所があります。流れが速いところや自分の膝の高さより深いところには行かないようにしましょう。

3. 一人で調査しない。

> 川での調査は、川に流されたり、ケガをしたりする可能性もあります。川を調査するときは、必ず数人でいきましょう。また、単独行動もやめましょう。

4. 天候に注意する。

> 雨が降ったら、流れが速くなったり、水の量が増えたりして大変危険です。雨の日または雨が降りそうな日は、調査を中止しましょう。また、調査中に雨が降ってきた場合も、調査を中止しましょう。

5. ケガをしないよう必ず靴をはいて調査する。

6. 足下に注意する。

> 川によっては川底がヌルヌルしていて滑りやすいので、注意しましょう。

調査のやり方

1. 調査範囲の中で、生き物を捕まえてください。

生き物の探し方

(1) 川底

網を川の底にしっかりつけて、流れの下流にかまえます。

人のこぶしから頭くらいの大きさの石をそっと持ち上げます。

持ち上げた石があった場所を足で軽くかき混ぜ、流れてくる生き物を網ですくい、水を張ったバケツやバットに入れます。

持ち上げた石にも生き物がくっついていることがあるので、石もよく見てみましょう。

(2) 川べり

川の端の植物が茂ったあたりに網をかまえます。

植物を揺らし、流れてくる生き物を網ですくうか、あるいは、網を川の端に当てながら網を揺らしてすくいます。

網ですくった生き物を水を張ったバケツやバットに入れます。

川の中の生き物の中には、小さいものもあります。網ですくったあとに、網の中をよく確認しましょう。すくったあとの網を水を張ったバケツやバットの中で裏返して振ってみると、生き物が網から離れやすいです。

2. バケツやバットの中の生き物や石に付いている生き物のうち、資料に載っている生き物を分類し、調査用紙に記入します。

3. 名前わからない生き物がいたら、図鑑やインターネットで調べてみましょう。

5. 調査が終わったら、捕まえた生き物は逃がしてあげましょう。また、拾った石も元のところへ戻しましょう。

ちょうさひょう きにゅう □ 調査票への記入のしかた

1. 見つけた生き物の数の整理を行います。

(1) マニュアルに載っている生き物のうち、捕まえた生き物の数を数の欄に記入します。

魚以外の生き物は、調査票の表、魚は裏に記入します。

(2) 魚以外の見つけた生き物には、数の横に をつけます。

(3) 魚以外の見つけた生き物の中で、見つけた数が多かった順の、一番目と二番目の生き物の を にします。

2. 調査票の「水質階級の判定」で判定を行います。

(1) 各水質階級の との個数の合計を「1. 印と 印の個数」の欄に記入します。

(2) 各水質階級の の個数を「2. 印の個数」に記入します。

(3) 各水質階級ごとに(1)と(2)を合計します。

(4) 最も合計の数字が多かった水質階級が、調査した場所の水質階級となります。

3. 川の感覚評価調査票を用いて、調査地点の評価を行います。

ちょうきひょう おもて
(調査票 表)

おおがきししぜんちようさ すいしつかいきょうさ ちょうきひょう
大垣市自然調査 水域調査 調査票

なまえ 名前: _____ せうこ 男・女 おい 才

けんさしたがわ 調査した川: _____ けんさびつじ 調査日時: _____ てんき 天気: _____

きおん 気温: _____ すいおん 水温: _____

みつけた生き物や捕まえた生き物を記録しましょう。

		みつけた生き物	かず			みつけた生き物	数
きれいな水	水質階級	ガガンボ		少し汚い水	水質階級	スジエビ	
		ヘビトンボ				ヌマエビの仲間	
		カワゲラの仲間				タニシの仲間	
		ウズムシ				モノアラガイ	
		サワガニ				ヒル	
		ヒラタカゲロウの仲間				ユスリカの仲間	
						ミズムシ	
少し汚い水	水質階級	マダラカゲロウの仲間		大変汚い水	水質階級	サカマキガイ	
		コカゲロウの仲間				セスジユスリカ	
		その他のカゲロウ				イトミミズ	
		ゲンジボタル				アメリカザリガニ	
		カワニナ					
		ヒラタドROMシの仲間					
		見つかった生き物	数			見つかった生き物	数
		シジミガイの仲間				汚い水	水質階級
		ヒゲナガカワトビケラ				汚い水	水質階級
		ニンギョウトビケラ				大変汚い水	水質階級
		シマトビケラの仲間					
		コカクツトビケラ					
		ハグロトンボ					
		コオニヤンマ					
		ヤマトンボの仲間					
		シオカラトンボの仲間					
		サナエトンボの仲間					
		ヤンマの仲間					

ちょうきひょうてん すいしつかいきょう
調査地点の水質階級はなんですか？

		水質階級			
水質階級の判定	1.	印と 印の個数			
	2.	印の個数			
	3.	合計(1.欄+2.欄)			
		その地点の水質階級			

うへに記載した生き物以外で見つけた生き物がありましたか？

その他に見つけた生き物

ちようぎひよう うら
(調査票裏)

みつけた魚を記録しましょう。

	みつけた魚	かず数
主に上流・中流に棲む魚	アカザ	
	ネコギギ	
	ギギ	
	オイカワ	
	タカハヤ	
	アブラハヤ	
	カワムツ	
	ヨシノボリの仲間	
	ドジョウの仲間	

	みつけた魚	かず数
主に中流・下流に棲む魚	ナマズ	
	ニゴイ	
	フナの仲間	
	コイ	
	ヌマチチブ	
	ウキゴリ	
	タモロコ	
カマツカ		

	みつけた魚	かず数
主に細流・水田・用水路・湿地等に棲む魚	マドジョウ	
	タイリクバラタナゴ	
	ヤリタナゴ	
	メダカ	
	カダヤシ	
	オオクチバス	
	ブルーギル	

上に記載した魚以外で見つけた魚や気づいたことなど自由に記入してください。

自由欄

かわ かんかくひょうかちようきひょう
川の感覚評価調査票

かんかく による 川の 評価方法 記録用紙

調査者名	年齢	才	性別	男・女
調査地点 <必須>	(市町村名) (河川名)			
	町名・字名とあわせて、目標物となる橋や公的な建物の名称を記入してください。			
調査日時 <必須>	年	月	日	時
	天気		はれ・くもり・あめ	

項目	A (10点)	B (6点)	C (2点)	D (0点)	判定 <small>(項目ごとの点数を記入)</small>	項目
川底の見え方	川底が明確に見える。	川底が見える。	川底がわずかに見える。 少し濁っている。	川底が全く見えない。 大変濁っている。		川底の見え方
におい	きれいな川特有の香りがする。	川特有の香りがする。 不快なおいがない。	水に鼻を近づけて、不快なおいを感じる。 風下の水際に立つと、不快なおいを感じる。	風下の水際に立つと、とても不快なおいを感じる。		におい
川底の状態	全く滑らない、またはわずかに滑る。 泥・ヘドロの堆積はない。 裸足で入りたくなる。	ところどころ滑る。 泥・ヘドロの堆積はない。 裸足で入ってもよい。	ヌルヌルする。 ミスワタ・泥・ヘドロが少し堆積している。 裸足で入りたくない。	ヌルヌルする。 ミスワタ・泥・ヘドロが多く堆積している。 裸足で入るのはイヤだ。		川底の状態
ゴミの量	川の中や水際にゴミは見当たらない。	川の中や水際にゴミはほとんど見当たらない、または少量である。	川の中や水際にゴミがあって、不快である。	川の中にゴミがあって、とても不快である。		ゴミの量
泡	泡がない。 ペットボトルに水を入れて振っても泡立たない。	わずかに泡がある。 ペットボトルに水を入れて振ると、泡がすぐに消える。	泡が多い。 ペットボトルに水を入れて振ると、泡が少したつと消える。	泡が非常に多い。 ペットボトルに水を入れて振ると、泡がなかなか消えない。		泡
油	水面に汚れが全くない。	よく見ると、気になる。	ギラツキが目立つ。	著しくギラギラしている。		油

見かけた生きものの種類	川の様子

注) 1 上記各項目において該当する評価(A～D)を判定し、判定欄にはその評価に相当する点数を記載する。
なお、評価できない項目、評価しなかった項目については、記載の必要はない。

2 総合評価は、平均点で評価する。(小数点以下切り捨て)

3 泡については、500mlのペットボトルに2/3量水を入れて、30回振った際の状態を記載する。

合計	点
平均点	点

総合評価	A : とてもきれい	B : きれい	C : 少しきたくない	D : 大変きたくない
平均点 <small>(小数点以下切り捨て)</small>	10点～8点	7点～5点	4点～2点	1点～0点

(感覚による川の評価方法:水環境づくり日本一・ぎふ推進会議 水質チーム提案)

ちょう さ たい しょう しゅ
調 査 対 象 種

しゅるい
58種類

きれいな水（水質階級）

ガガンボ



大きさ：～約30mm
特徴：中流や上流の、落ち葉などの間にいることが多い。
からだはプヨプヨしていて、くねくね動く。成虫は、足が長く、大きな蚊に似ている。

ヘビトンボ



大きさ：～約60mm
特徴：細長く、おなかの両側に足のような突起がある。
あごが大きく、かまれると痛いので注意。
カワムカデや孫太郎虫という地方名がある。

カワゲラの仲間 なかま



大きさ : 約10～40mm
特徴 : からだは硬そう(かた)で強そう(つよ)に見える。尾(び)が2本ある。溪流(けいりゅう)や平地(へいち)のきれいな川(かわ)の川底(かわぞこ)の石(いし)の下(した)などに住(す)んでいる。

ウズムシ



大きさ : ～約20mm
特徴 : からだは平(ひら)たくてやわらかい。ため、切(き)れやすい。石(いし)に密着(みつちゃく)し、這(は)うように動く。別名(べつめい)、プラナリアともいう。

サワガニ



大きさ : ～約25mm (甲羅(こうら)の幅(はば))
特徴 : 甲羅(こうら)は黒(くろ)っぽい褐色(かっしよく)のものが多いが、場所(ばしょ)によっては、真(ま)っ赤(あか)なものや、オレンジ、白(しろ)、水色(みずいろ)のものもいる。脚(あし)は朱色(しゆいろ)をしている。一(いっ)生(しょう)を淡水域(たんすいいき)で生活(せいかつ)し、藻類(そうるい)や昆虫類(こんちゅうるい)をエサとする。

ヒラタカゲロウの仲間 なかま



大きさ : 約10～20mm
特徴 : からだや足(あし)が平(ひら)たく、目(め)が顔(かお)の上部(じょうぶ)についている。尾(び)は2、3本(ほん)で細(ほそ)い。石(いし)の下(した)などを滑(すべ)るように生活(せいかつ)する。

すこ しょ にご りた みず すいしつ かいきゅう
 少し汚れた水（水質階級）

マダラカゲロウの仲間



あお ちゆう ちゆう
 大きさ：約5～15mm
 特徴：ほかの水生昆虫を捕まえて食べるため、前脚が大きい。からだがかほかのカゲロウ類と比べてがっしりしている。

コカゲロウの仲間



あお ちゆう ちゆう
 大きさ：約10mm以下のものが多い
 特徴：からだがか細長く、流線型で小型。よく泳ぐ。

その他のカゲロウ



あお ちゆう ちゆう
 大きさ：約5～20mmのものが多い
 特徴：石の下や、枯れ葉などの堆積物のあいだ、流れの少ない水域の泥底上などで見られる。尾が3本のものが多い。

トピックス

カゲロウの仲間の幼虫は水中に住んでいます。いろいろな種類がありますが、生息環境によって異なった体型をしています。

ヒラタカゲロウ類は、溪流や早瀬などに住み、水の流りに抵抗するために、平べったいからだをしています。

マダラカゲロウ類は、水生昆虫を捕食するために前脚が頑丈です。

チラカゲロウなど、よく泳ぎ回る種類は、魚のような紡錘形のからだをしています。

ゲンジボタル



成虫

大きさ : ~約25mm
特徴 : 流れが急ではなく、ある程度の流れがある場所の、2、3重に重なった石の下でよく見られる。主にカワニナをエサとする。幼虫も光る。

カワニナ



大きさ : ~約30mm
特徴 : ホタルのエサとして、しばしば放流される。細長い巻貝で、貝殻は黄土~焦げ茶色。流れが緩い川の川底で見られる。成貝は殻の上部が欠けていることが多い。

ヒラタドROMシの仲間



大きさ : ~約20mm
特徴 : 円盤形をしているものが多いが、楕円形でからだの横に突起をもつものもいる。川底の石にくっつけていることが多い。

シジミガイの仲間



大きさ : ~約30mm
特徴 : 砂底などに生息する二枚貝。川(淡水)にいるのは、マシジミ(なまきすいじ)の仲間。汽水域(川の水と海水が混ざったところ)にいるのはヤマトシジミ。貝殻の色は黄褐色~黒色である。

ヒゲナガカワトビケラ



大きさ : ~約40mm
特徴 : トビケラの中では大型で、頭は細長く、茶褐色でまだら模様がある。石の下に砂や小枝などで巣を作る。巣の上流側に網を張り、引っ掛かった植物片や藻などを食べる。

ニンギョウトビケラ



大きさ : ~約15mm
特徴 : 砂や小石を使って、筒状の巣を作り、左右両側に大型の粒を翼状につける。巣の中に入って移動する。石に付着した藻類などをエサとする。

シマトビケラの仲間



大きさ : ~約15mm
特徴 : 石と石の間に網を張り、引っ掛かった植物片や藻などを食べる。からだの色は、薄緑色や緑がかった茶色、茶色など。

コカクツトビケラ



大きさ : ~約15mm
特徴 : 葉片を使って、みの虫のように角すい形の巣を作り、巣の中に入って移動する。落ち葉が堆積した所に住むが、落ち葉や泥の中では見付けにくい。

ハグロトンボ



大きさ : ~約45mm
特徴 : からだは、とても細長く、褐色。平地を流れる川の植物が茂っている所に住む。
成虫は、翅が黒く、からだはオスは光沢のある青緑色で、メスは黒っぽい。

コオニヤンマ



大きさ : ~約30mm
特徴 : からだは平べったく、広葉状のかたちをしており、触角もウチワ型をしている。
川のよどみや水草の下に住んでいる。

ヤマトンボの仲間



特徴 : からだはがっしりしていて、脚が長く、クモのようなかたちをしている。
砂れき~砂底や泥底に住む。

シオカラトンボの仲間



特徴 : がっしりした体型で、体毛が多い。流れの緩やかな川や池などに住み、やわらかい泥の中などにもぐっていることが多い。

サナエトンボの仲間 ななま



特徴 : がっしりした体型で、棒状やウチワ状の触角や大きな触角をもつものがある。
コオニヤンマもサナエトンボの仲間の一種。

ヤンマの仲間 ななま



特徴 : からだは細長いのがっしりしている。色は、褐色~黒っぽい。目が大きい。
植物がよく生える池や流れが緩やかな川などに住む。

テナガエビ科の仲間 ななま



大きさ : ~約50mm
特徴 : からだは透明感があり、スジ縞模様がある。スマートな体型。
ハサミをもつ2本目の脚が長めで、脚の関節が黄色い。
ヌマエビとの区別は、ハサミを持つ脚でおこなう。

ヌマエビ科の仲間 ななま



大きさ : ~約40mm
特徴 : からだがやや黒っぽく、メスはずんぐりした体型。頭から尾にかけて、1本明るいスジ模様が入るものが多い。ハサミをもつ脚は口元くらいの長さしかない。

きたな みず すいしつ かいきゅう
汚い水（水質階級）

なかま
タニシの仲間



おおきさ : ~約20mm
特 徴 : 淡水にすむ巻貝で、他の巻貝より丸くすんぐりしている。入り口にフタを持つ。殻の表面は暗緑色～暗褐色をしており、右巻き。

モノアラガイ



おおきさ : ~約20mm
特 徴 : 殻が薄く、薄茶色～鉛色で透明感がある。殻に黒い斑模様があるように見えるが、これは軟体の模様が透けているためである。殻の入口が広い。右巻き。

ヒル



おおきさ : 約10～70mm
特 徴 : 色は、白、薄緑、茶、灰、縦縞など様々である。ウズムシに似るが、体節があり、からだが硬いことと、シャクトリムシのように伸び縮みして動くことで区別する。

みぎま ひだりま
右巻きと左巻き

タニシ類やモノアラガイは右巻きの貝です。見分け方は、貝をとがった方を上に置いて、入り口が右にくれば右巻きの貝、左にくれば左巻きの貝です。

数でいえば右巻きの貝が圧倒的に多く、左巻きの貝は少数派です。

左巻きの貝としては、サカマキガイや陸産貝類であるキセルガイの仲間がいます。普通、右巻きか左巻きかは、貝の種類によって決まっているのですが、カタツムリのなかまは、同じ種類でも右巻きだったり左巻きだったりすることがあります。

ユスリカの仲間 なかま



大きさ : ~約10mm
特徴 : 細長い円筒状で、緑～白色をしている。(赤い色のものもいるが、こちらは大変汚い水でも住める。) 人や動物の血を吸う『蚊』とは別の種類の生き物で、成虫になっても刺さない。

ミズムシ



大きさ : ~約10mm
特徴 : 灰褐色～濃い褐色で、ダンゴムシを平たくしたような形をしている。落ち葉などの腐った植物を食べる。

大変汚い水(水質階級)

サカマキガイ



大きさ : ~約15mm
特徴 : 殻は薄茶色や黄褐色、黒っぽい色などをしている。モノアラガイと似ているが、左巻きで、触角が細長いムチ状であることで見分ける。

セスジユスリカ



大きさ : ~約10mm
特徴 : 赤色で細長い円筒状をしている。泥を集めて筒状の巣を作る。生活排水による汚水域から大量発生することもある。

イトミミズ



大きさ : 約20～70mm
特徴 : 大変汚い川や下水、溝などに固まって住む。からだは薄紅～赤色で、土の中に住むミミズよりもかなり細い。乾燥に強く、水が無くなると固まりになって身を守る。

アメリカザリガニ



大きさ : ～約150mm
特徴 : 北アメリカ原産の外来種。日本原産のニホンザリガニより大型。からだは赤みが強く、丈夫。水田や用水路、池、流れが緩やかで浅い河川に住む。

主に上流～中流に棲む魚

アカザ



大きさ : ～約15cm
生息地 : 川の上～中流の石の下に棲む。
特徴 : 体色は暗赤色～赤褐色。ナマズやギギと比べて頭部が小さい。夜間や水が濁った時に活動し、水生昆虫をエサとする。胸びれと背びれのとげに毒があるので注意。環境省レッドリスト；絶滅危惧類

ネコギギ



大きさ : ～約15cm
生息地 : 川の上～中流の石の下に棲む。
特徴 : 体色は黒褐色で黄褐色の斑紋が入る。体型は、やや太め。ギギと似ているが、ネコギギは、尾びれの切れ込みが浅い。国指定天然記念物、環境省レッドリスト；絶滅危惧B類、岐阜県RDB；絶滅危惧類

ギギ



国内外来種

大きさ : ~約30cm
生息地 : 湖沼や河川の中流域
特徴 : 昼間は岩陰や石の下に潜み、夜間や濁り水があるときに出てきて水生昆虫、エビ、小魚などを捕食する。腹びれのトゲと基底の骨をすりあわせてギーギーと低い音を出す。

オイカワ



大きさ : ~約15cm
生息地 : 中～下流域の平瀬や湖沼
特徴 : 背中が灰色がかった青色で、体側は銀白色であり、体側に淡いピンクの横斑が数本入る。稚魚は銀白色。大きな尻びれをもつ。背中の背びれの前に黄色の紡錘形の斑点がある。

タカハヤ



大きさ : ~約10cm
生息地 : 上～中流の淀みや淵
特徴 : アブラハヤと比べ、尾の付け根がやや太く、寸胴。体側の大部分にごく小さい斑点が分布しているものが多い。

アブラハヤ



大きさ : ~約13cm
生息地 : 上～中流の淵や平瀬
特徴 : タカハヤと比べ、尾の付け根が細長く、ややスマート。ぬめりが強く、油をぬったようであることが名前の語源。体側の暗色斑紋は中央線付近に集中する。

カワムツ



大きさ : ~約15cm
生息地 : 河川の上 ~ 中流や湖沼
特徴 : 背中は黄褐色で、体側には太い紺色の縦帯がある。オイカワと同じく、大きな尻ビレをもつ。

おおがきし 大垣市とナマズ

ナマズは、古くから、大垣市の人々にとってなじみの魚だったようです。

毎年5月に行われる、大垣八幡神社の例祭である大垣祭では、「鯰やま」と呼ばれるやまが参加します。

このやまは江戸時代の初めに作られた古いもので、金の瓢箪をもった、赤い頭巾の老人が踊り狂う大ナマズを押しつけようとするからくりが乗せられています。

じょうりゅう かこういき す さかな 上流 ~ 河口域に棲む魚

ドジョウの仲間



アジメドジョウ



シマドジョウ



スジシマドジョウ (小型種東海型)

大きさ : ~約12cm
生息地 : 河川の中 ~ 下流域や水路の底
特徴 : 体形は細長く、紡錘形のものもいる。通常は3から6対のヒゲを持ち、それらは感覚器としてはたらく。口は小さく下向きに付いている。雑食性で何でも食べる。

ヨシノボリの仲間



カワヨシノボリ



トウヨシノボリ



シマヨシノボリ

大きさ : ~約7cm
生息地 : 河川の中 ~ 下流
特徴 : ハゼの仲間でお腹に腹ビレが変化した吸盤があり、川底の石や護岸にはりつくことができる。「ヨシをのぼる」という意味で名づけられたが、実際は登らない。多くの種類が海で成長し再び川に戻ってくる。

おも ちゅうりゅう かりゅう す さかな
主に中流～下流に棲む魚

ナマス



大きさ : ~約60cm
生息地 : 河川の中～下流域、池、湖沼
特徴 : 夜行性で、昼間は水底の岩陰などに潜んでいる。上あごと下あごにある一對ずつのひげを感覚器として用いて、エサを探す。小魚や小動物をエサとし、日本の淡水域の食物連鎖の上位に位置している。

ニゴイ



大きさ : ~約50cm
生息地 : 河川の中～下流域、池、湖沼
特徴 : 体色は緑褐色。コイよりもからだは細長く、体高が低い。鼻先が前へ突き出ており、口は下方に開くため、キツネ顔に見える。背びれが三角形で、尾びれの切れが深い。

フナの仲間



大きさ : ~約30cm
生息地 : 流れの緩やかな河川。湖沼、ため池、用水路
特徴 : コイに似るが、コイと違ってヒゲがない。分類が難しいとされている魚のひとつであり、姿・形・色だけで種を判別することはできない。

コイ



大きさ : ~約60cm
生息地 : 流れが緩やかな河川、池
特徴 : 体形は紡錘形で、口が下方にある。口ひげは2対。食性は雑食性で、口に入るものならたいていなんでも食べるほどである。硬い貝殻も砕き割って食べる。比較的汚れた水域でも生息できる。

ヌマチチブ



大きさ : ~約15cm
生息地 : 平野部の河川や池、浅い湖、沼
特徴 : 頭部は丸く胴体も円筒形だが、尾部は平べったい。他のハゼ類と比較して太く短い体形をしている。若や倒木、杭などや礫底など隠れ場所の多い場所を好み、なわばりをつくる。胸ビレ基底部に黄土色の横帯があり、その中に不規則に走る橙赤色の線がある。

ウキゴリ



大きさ : ~約13cm
生息地 : 河川の中~下流
特徴 : ハゼの仲間としては大型で、底生性が弱い。頭部は潰れたようなかたち。体色は、半透明の黄褐色で、黒い斑点がある。前方の背びれの後端部に黒色斑をもつ。若魚は底から離れて中層をフワフワと泳ぐ習性があることから、この名がついた。

タモロコ



大きさ : ~約10cm
生息地 : 河川の中~下流域、用水路
特徴 : 口が丸く、長い口ひげが一對ある。からだは、やや太い紡錘形をしており、体側に暗色の縦帯がある。体色は、銀白色で少し褐色がかっている。雑食性で、主に底生動物をエサとする。

カマツカ



大きさ : ~約20cm
生息地 : 河川の中~下流域や湖沼の砂底や砂礫底
特徴 : 底生魚で腹側が扁平。臆病で、驚いたり外敵が現れたりすると、砂底に潜り、自だけを出して身を隠す習性がある。口が長く下に突っており、底生生物を砂ごと吸い込み、捕食する。

おも さいりゅう すいでん ようすいろ しっちとう す さかな
 主に細流・水田・用水路・湿地等に棲む魚

マドジョウ



おお 大き さ : ~約12cm
 せいそくち 生息地 : 泥や砂礫の川底。
 たくちよう 特徴 : 腹が淡色で、それ以外は灰~褐色で、黒っぽい小さな斑点が背中中に無数にある。細長い体形をしており、ヒゲは10本。

タイリクバラタナゴ



⚠ 外来種

おお 大き さ : ~約8cm
 せいそくち 生息地 : 流れの緩い河川や水路、池、沼
 たくちよう 特徴 : 原産国はアジア大陸東部や台湾。要注意外来生物に指定されている。ニホンバラタナゴとの交雑により、ニホンバラタナゴを絶滅の危機に追い込んでいる。両者の識別は難しい。平たく、体高が高い口ひげはない。

ヤリタナゴ



おお 大き さ : ~約10cm
 せいそくち 生息地 : 平野部の河川や池、浅い湖、沼
 たくちよう 特徴 : タナゴ類の中では、比較的流れのある場所に棲む。長い口ひげが特徴。オスはマツカサガイなどの二枚貝になわばりをつくり、メスは二枚貝に産卵する。婚姻色が出たオスは、頬部と腹部が朱色になり、背びれと尻びれの一部が朱色になる。

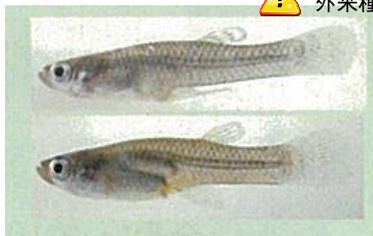
メダカ



おお 大き さ : ~約4cm
 せいそくち 生息地 : 流れの緩い小川や水路、水田など
 たくちよう 特徴 : 日本産の淡水魚としては最も小さい。眼が大きい。背が黒褐色で目立ち、背びれが体のかなり後方にある。腹びれは前後に長い。環境省のレッドリストでは、絶滅危惧類に指定されている。

カダヤシ

⚠ 外来種



大きさ : オス～約3cm、メス～約5cm
生息地 : 流れの緩い小川や水路など
特徴 : 北アメリカからの外来種で、特定外来生物に指定されている。蚊の幼虫であるボウフラをよく食することから、蚊退治のため、持ち込まれた。尾びれが丸い。

特定外来生物とは

特定外来生物とは、外国から来た生物のうち、特に生態系などへの被害を及ぼすものとして、「外来生物法」という法律によって決められた生物のことです。特定外来生物は、飼ったり、栽培してはいけません。また、持ち運んだり、輸入したり、野外への放したりすることも禁止されており、違反すると罰則があります。

調査対象種の中では、カダヤシ、オクチバス、ブルーギルが特定外来生物にあたります。

オクチバス

⚠ 外来種



大きさ : ～約50cm
生息地 : 湖沼などの止水環境や流れの緩い河川
特徴 : 口が大きく、上あごの後端が目の後端よりも後ろに達する。魚やエビなどをエサとする肉食性。
通称、「ブラックバス」。特定外来生物に指定されており、無許可の飼育、放流などが禁止されている。

ブルーギル

⚠ 外来種



大きさ : ～約20cm
生息地 : 湖沼などの止水環境や流れの緩い河川
特徴 : 体は丸っぽく、平べったい。体色は淡い緑褐色のものが多く、横しまが10本前後ある。左右のエラの部分に皮弁があり、その部分が紺色になっているため、この名前が付いた。水草の生えた場所を好み、昆虫や小魚をエサとする。

はつ
発

こう
行

おおがきしやくしょ せいかつかんきょうぶ かんきょうえいせい
大垣市役所 生活環境部 環境衛生課

おおがきしまる うち

〒503-8601大垣市丸の内2-29

ないせん

TEL : 0584-81-4111 (内線413)

E-mail : kankyoueiseika@city.ogaki.lg.jp

へん
編

しゅう
集

いっばんざいだんほうじん
一般財団法人

ぎふけんこうしゅうえいせいけんさ
岐阜県公衆衛生検査センター



大垣市の魚
ハリヨ